

Rudolf Hilferding の埋葬墓地について

～最新の調査を踏まえて～

黒 滝 正 昭

1941年2月10日 Rudolf Hilferding が、当時の仏 Vichy 政権により独 Gestapo に引き渡され、投獄されたパリ La Santé 監獄で服毒自殺を遂げてから、2024年2月10日で没後83年になる。本稿はそれを追悼するものである。

本稿の前半部分は、2015年11月13日私がパリの墓地で行なった聴き取り調査を基に、2016年3月30日岡山大学で開催された「第23回ポスト・マルクス研究会」で行なった報告を再構成したものである。その時の報告でなお不明であった諸点を、2023年9月～10月にかけてパリの当該墓地管理オフィスとの間で手紙とメールのやり取りによる追加調査を行い、これで必要な調査は完了した。この追加調査の中身が、本稿の後半部分である。

研究史上不明であった Rudolf Hilferding の死をめぐる問題に関する、1984年以來の私の追究¹⁾は、これを以て完了する。

I

「Rudolf Hilferding の埋葬墓地」というテーマで改めて調査・確認の必要を感じたのは、既に1999年に Delacor が、次のように述べていたことを知ったからである。「ルードルフ・ヒルファーディングの正確な死因については、確定的なことは言えない¹⁰³。目撃者たちの証言を信用するならば、この社会民主党政治家は、ヴェロナールの服用によって死亡したことになる。彼の遺体は、1941年2月19日、Ivry-sur-Seine の墓地の Nr.643 に埋葬された¹⁰⁴。」(Regina M. Delacor, “Auslieferung auf Verlangen”? Der deutsch-französische Waffenstillstandsvertrag 1940 und das Schicksal der sozialdemokratischen Exilpolitiker Rudolf Breitscheid und Rudolf Hilferding, in: *Vierteljahrshefte für Zeitgeschichte*, 47. Jahrgang, Heft 2, April 1999, S.240. 脚注数字は原文。下線は黒滝。私がこの論文の存在を知ったのは、経済学史学会からの依頼で Jan Greitens, *Finanzkapital und Finanzsysteme: “Das Finanzkapital” von Rudolf Hilferding*, Marburg 2012 の書評に取り組んだことがきっかけで、Greitens の記述から教えられたのである²⁾。)

このように Rudolf Hilferding 埋葬の墓地名と墓番号が明示されたのは、研究史上初めてであったので、現地に出かけ自分の目で確認するのを感じた。2015年11月中旬、Amsterdam 大学の教授であった故 Prof. Dr. Wilfried Gottschalch のお墓参りにオランダを訪れる際、Amsterdam から日帰り

でパリに出かけ、Hilferdingのお墓の写真を撮ってくれば、長年不明であった彼の墓地・墓の所在の問題が解決されると考えたのである。しかし、事柄はそう簡単には行かなかった。

II

上記引用文に付された脚注 104 で Delacor は、次のように補足している。「文献において広められた見解、即ち Hilferding はパリの Père Lachaise 墓地に埋葬されているという見解 [Kurt Kersten, Das Ende Breitscheids und Hilferdings, in: Deutsche Rundschau, 84.Jahrgang, 9. Heft, 1958] は、当該墓地当局での (im entsprechenden Friedhofsamt) 調査によれば、立証されなかった [この点に関しては、黒滝正昭『ルードルフ・ヒルファーディングの理論的遺産—「金融資本論」から遺稿まで—』近代文藝社、1995.1, p.261 参照]。墓地管理部 (Friedhofsdienst) の情報によれば、埋葬は Ivry で行われた。その間に (inzwischen) 遺骨 (die sterblichen Überreste) は、納骨堂 (ein Beinhaus) に移された」(p.240)。

Kersten の見解の誤りについては、既に 1970 年、Yvon Bourdet によって調査・証明済みである。「Père Lachaise 墓地には、プロテスタント区というもの存在しない。そして兎に角 Hilferding の名は、この墓地の記録簿上には、埋葬者たちの中にも火葬者たちの中にも、全く記録されていない」(Rudolf Hilferding, Le capital financier, Paris 1970, p.38; 黒滝同上書、p.261, p.272)。Delacor はこれを知らないようである。あるいは出典を挙げずに Bourdet を利用しているのか？

他方上記下線部については私は、現在 Hilferding のお墓は無くなっているという趣旨には受け取っていなかった。ところが実際に墓地に行くと管理事務所で尋ねたところ、No.643 のお墓というもの存在しなかった。

III

2015 年 11 月 13 日朝 9 : 17、Amsterdam Centraal 駅を発って、12 : 35 Paris Nord 駅に到着。駅案内所で教えてもらったバス→市電→バスの乗り換えが複雑で、距離も結構あったため、辿り着けないのではないかと心配になったが、幸いその時々により合わせた乗客が親切に教えてくれて、14:00 過ぎに何とか到着した。Paris 市役所が管理する Cimetière Parisien d'Ivry というのが正式名称で、住所は 44, avenue de Verdun, 94220 IVRY SUR SEINE, Tél: 01 56 20 25 70 Fax: 01 46 72 68 49 である。

門の手前左手に管理事務所があり、中に入ると年配の女性職員が対応してくれた。そこで Delacor 論文の当該ページのコピーを見せながら、No.643 のお墓を観たいと告げると、そういうお墓は存在しないという答えであった。誰のお墓を探しているのか？と訊くので、Rudolf Hilferding という大戦前のドイツ社会民主党の理論家・政治家のお墓だと伝えた。「ドイツ人だとここにはいないと思うけれども・・・」と彼女は言いながら、奥に入って記録簿の当該分冊を持って来て調べていたが、「あった！」と叫んだので、私は驚きと感動で、遂に Hilferding のお墓に出会えたかと、嬉

しさに浸りきった。

比較的薄いその分冊には、番号順に何人もの埋葬者の氏名と必要事項が書式欄に従って手書きで記入されていた。コピーを頂けないかと尋ねたが許可されなかった。止むを得ず急ぎメモしたのが、以下の記述である：

No.2122 Hilferding, Rudolf 埋葬日 **19. Décembre 1941** その右側は **Situation** (状況) 欄になっていて、それがさらに **4** 欄に小分けされている：**Division** (区画) 292；**Ligne** (列) 1；**Numéro 34^m15**；**famille grade** (家系?) 記入無し、空欄のまま。

Delacor の記述と比べて分かるのは、何よりも先ず埋葬月日が異なること (2月19日ではなく、12月19日) である。さらに彼女が記した **Nummer 643** という墓番号は、それらしいものは全く見当たらない。彼女もフランスの墓地当局からの情報に基づいて記述したのであろうから、単なる誤りとは考えられないが、それではこの差異は何を意味するのであろうか？ 2月19日から12月19日まではこの **Nr.643** に埋葬されていたという記録が、何か他にあるのだろうか？ 少なくとも彼女は、今私が見たこの記録簿を直接確認しなかったことだけは、確実である。

他方、私がかつて紹介した Hermann Schultz の報告 “Wo verblieb Dr. Rudolf Hilferding ? ” (これは Zentral-Archiv für Wehrmedizin の職員であった Schultz が、Rudolf の妻 Rose Hilferding に送り、Rose が「信頼できる報告」として写しを Oscar Meyer に送り、さらに Meyer が 1947年3月31日付で、Hilferding 追悼の小伝を執筆中であった A. Stein に送ったものである) には、「Dr. R. H. は、der evangelische Gemeindefriedhof, Liegestelle **Nr.34** に眠っている」と書かれていた (黒滝同上書 p.263)。この **Nr.34** は、端数を切り捨てると、記録簿の **Numéro 34^m15** と一致する。(のちに見るように Schultz は、“34メートルという距離”を“34番という番号”と誤解したのであるが、墓の位置を直接に示す数字を見出した点で、Delacor より正確であったと言えよう。

上述女性職員は、この番号を「34メートル15」と読み上げたが、番号が「**34メートル**・・・」というのはどういうことか？ 私には理解できなかった。しかしながらその意味を確認する時間的余裕は、私には無くなっていた。帰りの予約列車 (Thalys) が Paris Nord 駅発 17:25 で、墓地から駅まで2時間は余裕を見ないと乗り遅れる危険があったからである。(帰路は、女性職員が地下鉄での帰り方を丁寧に教えてくれたお蔭で、順調に Paris Nord 駅に着いた。予約列車に間に合って Amsterdam のホテルに帰ったところ、Gottschalch 夫人から Tel を欲しい旨のことづけがあった。Tel して初めて、その晩パリで同時多発テロが発生、夫人が心配して私のホテルに Tel をくれたことが分かった。もう少し帰りが遅れたら、パリを出ることができなくなっていたかも知れない)。

墓地女性職員のそれまでの説明全体は、私の聴き取りに間違いがなければ、こうである。この墓地への埋葬は市からの指示で行われる。遺体を5年間埋葬・保管して、その間に家族または親類等が来て遺体を引き取らないと片付けてしまうということである。上記 **famille grade** 欄が空白になっているということは、その間に Hilferding の家族・親類等から何の連絡も無かったことを意味している (他の人たちのケースは、その欄が結構記入されていた)。従って Hilferding の場合、埋

葬・保管の5年間の期間は既に終了して、今はもうお墓は存在しない。こういう趣旨であった。そこで Delacor 論文の下線部に戻ると、**inzwischen** というのは、この5年間の遺体の埋葬・保管期間が終了して以降、という意味で、埋葬を止め、お墓を片付け、遺骨を納骨堂に移したという意味であったか、と考えた次第である。そうすると、その納骨堂はどこにあり、Hilferding の遺骨は現在でもそこに保管されているのか？という新たな問題が出て来る。

以上の内容で、疑問の諸点は残したまま、2016年3月30日第23回ポスト・マルクス研究会で報告を行ってから7年半以上が経過した。これらの疑問点を何とか解決して論考をまとめるべく、今回、パリの当該墓地管理オフィスとの間で手紙とメールのやり取りによる追加調査を行い、幸いなことにほぼ全て解決することができた。次節以下、その内容を記す。

【補注】Wikipédia の記述によると、**Cimetière Parisien d'Ivry** は、1861年に創られた小さい墓地（7.69ha）と1874年に創られた大きい墓地（20.69ha）と、道路を挟んで二つある。48,000の契約分配地と47区画があり、1861年から2007年まで240,000人が埋葬され、毎年約1,000名の埋葬が行われた。この墓地で埋葬あるいは処刑された人たちの筆頭に、パリ・コミューンの処刑された人たちが挙げられている。即決で処刑された夥しい数（5,000～15,000名）のパリ・コミューンの犠牲者たちを、1871年5月にこの墓地は受け入れた。

次いで第二次世界大戦とレジスタンスの犠牲者たちが挙げられ、仏共産党が「銃殺された人たちの正方形」と名付けた地所を買い取り、お墓を建てて記念していることも紹介されている (https://fr.wikipedia.org/wiki/Cimet%C3%A8re_parisien_d%27Ivry 2016/03/25)。

IV

以下では資料を、順を追って再現しつつ論じていく。最初は、私が当該墓地オフィス宛てに航空便で送った、質問の手紙である（この時は、先方のメールアドレスが分からなかった）。

Sendai, Japan, 13./15. 9. 2023

To Cimetière Parisien d'Ivry

Dear Messieurs,

In November 2015 I came to your Cimetière as a Hilferding-researcher to visit the grave of Rudolf Hilferding (österreich.-dt. Sozialwissenschaftler, Politiker (SPD) und Publizist. Wien 10.8.1877, † (in Gestapohaft) Paris 11.2.1941). At that time I have got much teaching about it at your office. Now I have a plan to write a monograph about it and wish to confirm several points as follows. I hope for you so much kindness to answer me about them as soon as possible.

1. On your Register, No.2122, was the name Hilferding, Rudolf. Burial date: 19. décembre

1941. Situation: Division 292, Ligne1, Numéro 34^{m[ètre?]}15. I didn't understand the underlined part. Does it point out the place of Hilferding's grave? If so, how? Couldn't you illustrate the place of Hilferding's grave?

2. According to my note at that time the grave of Hilferding didn't more exist, because of no connection for 5 years from his family or his friends etc. Is my note correct?

3. German researcher Regina M. Delacor writes, Hilferdings "Leichnam wurde auf dem Friedhof von Ivry-sur-Seine am 19. Februar 1941 unter der Nummer 643 beigesezt." "Nach Auskunft des Friedhofsdienstes fand die Bestattung in Ivry statt. Inzwischen wurden die sterblichen Überreste in ein Beinhaus überführt." (R.M.Delacor, Die Auslieferung der sozialdemokratischen Exilpolitiker Rudolf Breitscheid und Rudolf Hilferding nach dem deutsch-französischen Waffenstillstandsvertrag 1940. In: Vierteljahrshefte für Zeitgeschichte, 47. Jahrgang 1999, 2. Heft, April, S.240)

About underlined part: 1) What does it mean, the difference of date and number "19.2.1941, No.643" and "19.12.1941, 292-1-34^m15"? 2) What is "ein Beinhaus"?

3) Do You keep now, at present time, ashes [remains] of Rudolf Hilferding?

That's all.

Masaaki Kurotaki

以上、前節までに論じてきた際に言及した主要な疑問点を列挙したものである。これに対して先方の担当者即ち Quoc Hung LE 氏（イヴリ・パリ市民墓地管理官補佐）から、折り返しで詳細な添付資料付きのメール返信を頂いた。以下にそれを掲げる。（[] 内は黒滝による補正）

From: Le, Quoc Hung <QuocHung.le@paris.fr>

Sent: Monday, September 25, 2023 10:43 PM

To: kuroia-k@mail.bbexcite.jp

Subject: TR: Message from KM_C300i

Bonjour

To respond to yours questions in the letter dated from 15 September 2023 :

First and third questions in the document joint above.

Second question , it was a free tomb then the bones are take out five years after burial.

I dont know w[h]ere they put the remains in 1941.

I m sorry for my approximative english.

Cordialement



Quoc Hung LE

Conservateur Adjoint

DEVE

Cimetière Parisien d'Ivry

0156202570

44 avenue de VERDUN 94200 Ivry Sur seine

[Donnez votre avis sur les jardins ou les cimetières](#)



cimetiereparisien.ivry@paris.fr

これによれば、私の質問 1 と 3 は添付資料で回答、2 だけ本文で回答するということである。

私の質問 2 は、“当時の私の聴き取りメモでは、ヒルファーディングのお墓はもはや存在しない。それは埋葬から 5 年以内に家族や友人等から何の連絡も無かったからだと書かれているが、それで正確かどうか？”を確認したもの。

Le 氏の回答は、「ヒルファーディングのお墓は自由墓 (free tomb)であったので、埋葬から 5 年後に遺骨は取り出される。それを当時どこに始末したか、自分には分からない」という趣旨である。

「自由墓」(free tomb) というものがよく分からないが、恐らく墓地の中のフリースペースで、身寄りがなく亡くなった人たち等を市が 5 年間の期限付きで埋葬したお墓のようである。従って家族等から連絡があった場合でも、そのままそこに埋葬され続けることはなく、家族等は遺骨を引き取って別にお墓を工面しなければならない。ヒルファーディングのように何の連絡も無かった遺骨は、期限後に墓地が始末することになる。

次いで私の質問 1 と 3 に回答した添付資料の中身を検討しよう。(次頁図 1 参照)

私の質問 1 は、「Hilferding のお墓の位置を示すと思われる、記録簿上の '**Division** (区画) 292 ; **Ligne** (列) 1 ; **Numéro 34^m15'** という記述の意味が分からない。教えてほしい」というものである。

それに対する Le 氏の回答は、図 1 にあるように、私が 2015 年に見ることのできなかった原簿 (daily register) 当該箇所のコピーまで付けて頂いて、有難いことこの上ない。そこでは 29^o. 1 34^m,

15 と書かれている。: The Division number 29 and the 2nd [原簿コピーでは Hilferding は “3rd” Le 氏の見誤り] section (it does not exist anymore. It’s now a memory garden.) これで見ると、私が閲覧した “the annualy register” で 「292」とされていたものは、正確には 「29³」であったこと、その意味は 29 区画第 3 セクション。そしてその中の第 1 列。[これらは今は存在せず、跡地は現在「メモリー・ガーデン」になっている（次頁図 2 の墓地見取り図で、29 区画の上、×印を付けられた部分。ここに Hilferding が埋葬されていたことになろう。)]

34 メートル 15 というのは、“The meters from the beginning of the line” 即ち第 1 列の始点から列に沿って測った距離で、Hilferding のお墓の位置を示していたのである。

私の質問 3 の 1) は、Delacor 論文の記述との差異を問題にしたものである。Delacor は、Hilferding の遺体が 1941 年 2 月 19 日、墓地の Nr.643 に埋葬された、と書いている。この記述に関する Le 氏の回答は “The date of 19_12_1941 is an error of transcripiter from this daily register to the annualy register.” これによって、私がパリで閲覧した記録簿は原簿（daily register）ではなく、それから転記された年刊記録簿であること、そのさい転記者の書き誤りで埋葬日が「2 月 19 日」ではなく「12 月 19 日」とされたことから生じた差異であったことが明らかになった。氏が添付してくれた原簿のコピー（図 1）でこれを確認できる。

さらに “Nr.643” というのは、Delacor の言うような Hilferding のお墓の番号ではなく、“the 643th person who died in the 13^{eme} borough of Paris from 1st January to 19 February 1941 ” という事で、「1941 年 1 月 1 日から 2 月 19 日までにパリの第 13 区で亡くなった 643 番目の人」という意味であることが分かった（氏のご教示によれば、パリには第 20 区までである）。

もう一つ、冒頭に付けられている No.2122 という Hilferding の番号（これは、私の見た記録簿も同じ）は、“The number of person who is buried in all the cemetery of Paris from 1st January until 19 February 1941.” という事で、「1941 年 1 月 1 日から 2 月 19 日までにパリのすべての墓地に埋葬された人の番号」だということであるから、これも埋葬された順に番号が付けられたものであろう。（氏のご教示によれば、パリには全部で 20 の墓地がある）。

私の質問 3 の 2), 3) に関しては、節を改めて論ずることにしたい。

V

質問3の2), 3) に関して、私は新たに論点を絞った質問メールを Le 氏宛てに送信し、折り返しご返事を得た。初めにそれを掲げる。

De : kuroia-k@mail.bbexcite.jp <kuroia-k@mail.bbexcite.jp>

Envoyé : lundi 9 octobre 2023 11:56

À : Le, Quoc Hung <QuocHung.le@paris.fr>

Objet : RE: Message from KM_C300i

*** CE MESSAGE A ETE EMIS PAR UN EXPEDITEUR EXTERNE ***

PRENEZ GARDE AUX LIENS ET AUX PIECES JOINTES. NE FOURNISSEZ JAMAIS VOTRE MOT DE PASSE DE CONNEXION VILLE DE PARIS.

Dear Mr. Le !

May I ask the last question ?

What is "ein Beinhaus" (in French "ossuaire") ? Does your cimetière or Paris City have ossuaire, where they keep yet now ashes [remains] of Rudolf Hilferding? If so, please give me the exact information, number etc. of it, to come in contact with Hilferding's ashes.

I'm deeply grateful to you for a lot of kind answers until now !

With kind regards

Masaaki Kurotaki

Bonjour

Paris have 2 ossuaires, from the 19th century to 2017, its the « cimetière du Père Lachaise ».

From 2017 to today it's the « cimetière parisien de Thiais ».

Cimetière parisien de Thiais - Ville de Paris

The remains from the free grave never go to the ossuaire, i dont know where they are, we suppose that they were buried somewhere in our cimetière.

Cordialement



Quoc Hung LE

Conservateur Adjoint

DEVE

Cimetière Parisien d'Ivry

0156202570

44 avenue de VERDUN 94200 Ivry Sur seine



cimetiereparisien.ivry@paris.fr

私が最後の質問として明確に知りたかったのは、墓地の Hilferding のお墓が片付けられた後、Delaor の言うように遺骨がどこかの納骨堂に移されたのかどうか、移されたとすればどこの納骨堂で、その所在番号等、正確な情報を教えてほしいということであった。

これに対する Le 氏の回答：Hilferding のように「自由墓に埋葬された人の遺骨は、納骨堂に移されることは決して無い。私には、それが今どこにあるのか分からないが、私たちは、恐らくその遺骨はわれわれのイヴリ墓地のどこかに埋葬されたものと推測している。」これによって、Delacor の納骨堂に関する情報は誤りであることが確定した。

さらにパリ市には納骨堂が二つあり、一つは Père Lachaise 墓地の納骨堂（19世紀から2017年までの遺骨を納めるもの）、もう一つは Thiais パリ市民墓地の納骨堂（2017年から今日までの遺骨を納めるもの）であるということである。

以上、最終的に Rudolf Hilferding のお墓は現在存在しないということ、またその遺骨は納骨堂に納められることもなく、1946年2月に、それまでイヴリ墓地の第29区画第3セクション第1列・34^m15にあったお墓から取り出され、恐らくは同一墓地内のどこかに埋葬された。それに関する記録は存在しない。これが本稿の結論である。

本稿を、2023年12月30日で没後16年を迎えられた恩師・東北大学名誉教授 服部文男先生に捧げる。先生は、このテーマに終始強い関心を持たれ、折々に貴重な助言を下された。

注

- 1) ① 'Zur Todesursache Rudolf Hilferdings', 『宮城学院女子大学研究論文集』、61号、1984. 12.
②「Rudolf Hilferding の死因について」、東北大学『研究年報経済学』、Vol.47, No.1, 1985. 6. (①の邦訳・大幅改訂増補版)
③「ヒルファーディングの最期の足跡を尋ねて」、『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』、第38号、2001. 11 (後に改訂の上、次項④の拙著—
④—『私の社会思想史—マルクス、ゴットシャルヒ、宇野弘蔵等との学問的対話』成文社2009.12、に収録)
⑤「Rudolf Hilferding の埋葬墓地について」、第23回ポスト・マルクス研究会報告レジュメ、2016. 3. 30.
- 2) 【書評】「Jan Greitens, *Finanzkapital und Finanzsysteme: "Das Finanzkapital" von Rudolf Hilferding*, Marburg: Metropolis-Verlag, 2012, 513 pp. +iii」, 経済学史学会『経済学史研究』、56-1, 2014. 7.
なお、本書評の独訳・増補版は KURUTAKI Masaaki, 'Jan Greitens, *Finanzkapital und Finanzsysteme: "Das Finanzkapital" von Rudolf Hilferding* Marburg, Metropolis-Verlag, 2012, 513 pp. +iii', 宮城学院女子大学人文社会科学研究所『人文社会科学論叢』第26号、2017. 3.

Burial Place of Rudolf Hilferding Based on the Latest Research

KUROTAKI Masaaki

Where is the tomb of Rudolf Hilferding [an Austromarxist, the theoretical leader of SPD, the Minister of Finance of the Weimar Republic (1923 and 1928–29), 1941 suicide with Veronal in Gestapohaft Paris] ? It has been a mystery for a long time. At last in 1999 Delacor, Regina M. wrote, Hilferding's "Leichnam wurde auf dem Friedhof von Ivry-sur-Seine am 19. Februar 1941 unter der Nummer 643 beigesetzt." "Nach Auskunft des Friedhofsdienstes fand die Bestattung in Ivry statt. Inzwischen wurden die sterblichen Überreste in ein Beinhaus überführt."

According to my own research, in 2015 and 2023, it is true that Hilferding's tomb was at first at the Ivry cemetery as free tomb which had no number, therefore it was not No. 643. After 5 years his bones were removed somewhere, and since then the free tomb has been no more, the site of the free tomb is now a memory garden. The remains from the free grave never went to the ossuaries. Therefore, the people at the Ivry cemetery suspect that the remains were buried somewhere else at the cemetery, but they don't know where. It has not been documented in any way.

In conclusion: we might say, Hilferding's tomb is now no more, nowhere in the world.